

□ 授業を受けるうえでの注意点

- 〔授業前〕 ・ 宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておきましょう。
- ・ テキストや筆記用具などの準備をし、忘れ物があるときは受付へ相談してください。
 - ・ 携帯電話など音が出る機器は、サイレントモードにするか電源をオフにしましょう。（緊急の場合は教室あてに連絡をお願いしてください）
- 〔授業中〕 ・ 休けい時間は取らないので、お手洗いに行きたくなったときや体調が悪くなった場合は、遠慮せずに申告してください。
- ・ 飲み物は飲みたいタイミングで飲んでもかまいませんが、食べ物はガムやアメもふくめ授業中には食べないようにしてください。（トローチやのど飴は申告があれば許可します）
 - ・ 授業にふさわしくない言動や姿勢は注意します。（私語、不規則発言、机へのつつぷし、居眠り、イスあそび、テキスト立て など）
 - ・ 途中式や答えはテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施してください。
（問題文への線引きや図形問題の条件等はテキストに書きこみでかまいません）
また、授業後に解き直しがしやすいように、ノートをしっかりとりましょう。

□ 毎回の宿題について

【全員共通】

前期と同様の宿題です。授業では、「例題の解説＋基本の一部」を実施します。

(1) **類題演習** 全問（＋理解があいまいな例題の解き直し） / **授業で実施した基本問題** ×問再実施

(2) **基本問題** 残りの問題すべて

(3) **計算日記** 1回6ページをなるべく1日1ページずつ

(4) **確認テスト** 添削用紙へ全問を実施

※ すべての課題について、「解く」「〇つけ」「間違いの直し」「自力で解けるまで」実施しましょう。

・ できるだけ途中式・考えかたを残しましょう。

・ 間違いの直しは、自分の途中式を見てミスしているところを直してください。

・ 確認テストは、このあとに記載の「確認テストの進めかた」にしたがって実施しましょう。

※ どうしてもやり切れない場合は、(2)の実施を除外してください。
ただし、アタックテスト偏差値50以上が目標の場合は遅れてでもすべてを実施しましょう。

※ (1)(2)は宿題提出用ノート、(3)は計算日記用ノート、(4)は添削用紙へ実施してください。

※ 宿題の未提出は個別に声がけをすることがあります。（予定などで実施が難しいときはあらかじめ相談しましょう）

※ 解きかたを忘れてしまった問題は、「対応する問題の授業ノート」→「解説冊子」の順に解法を確認しましょう。

【任意課題】 アタックテスト偏差値65～が目標で余力がある場合

- (5) **練習問題** 全問を実施（さらに余力があればチャレンジ問題まで実施）
- ※ 算数演習授業で同レベルの問題をあつかうため、なるべく算数演習授業を受講したあとに実施しましょう。
 - ※ 解説を見ても理解できない問題の解き直しはとばしてもかまいません。

□ 1週間のスケジュール例

	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日
新演習	授業の復習・類題の実施		基本問題の実施			確認テスト	
計算日記		1ページ目	2ページ目	3ページ目	4ページ目	5ページ目	6ページ目

※ 確認テストは満点を目指し、そのほかの課題がある程度完了した段階で実施しましょう。

□ 確認テストの実施のしかた

① 配布された添削用紙を、たてに半分で折る。（真ん中で区切る）

② 実施日・名前を書く。

③ 時間をはかり、途中式や筆算をできる限り残しながら全問を実施する。

※ ①で折った折り目を目安に、途中式や答えを横ではなく、縦(たて)に書き進めてください。

※ スペースが足りない場合は、裏面を使用してもかまいません。

※ 採点者に伝わる途中式を書くことを意識してください。

④ 実施にかかった時間を添削用紙の左上へメモをする。

⑤ 解説冊子を確認して、〇つけをする。

⑥ 間違えた問題は、解説冊子や授業用ノートを確認して、ミスの修正(直し)やメモをする。

※ 解説冊子や授業ノートを確認しても理解できない問題は、「わからない内容」をなるべく具体的にメモしてとばしてください。（解説の式や答えの丸写しは不要です）

⑦ ⑥で理解をした問題を、余白へもう一度解く。（自力で正解するまで解きなおす）

【確認テストの実施例】 ※ 確認テストの提出は解答用紙のみでかまいません。（問題用紙の提出は不要です）

添削問題解答用紙

「確認テスト」第 回

時間をはかって実施し、
かかった時間を左上あたりに記入してください。

1(1)
.
.
.
2(1)
.
.
.
※ 全てを解き終わったら、解答を確認して〇つけをしてください。
※ ×問は解説を確認したあと、「何が違っていたかの直し」をメモに残しましょう。

3(1)
.
.
.
4(1)
.
.
.
〈解き直し〉
.
.
.

上欄の記入は自分の氏名のみでかまいません。

〇つけをしたあと、×問は解説を確認したうえでもう一度解き直しをしてください。

小5理科 学習のすすめかた（後期）

□ 授業を受けるうえでの注意点

〔授業前〕 ・ 宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておきましょう。

- ・ テキストや筆記用具などの準備をし、忘れ物があるときは受付へ相談してください。
- ・ 携帯電話など音が出る機器は、サイレントモードにするか電源をオフにしましょう。（緊急の場合は教室あてに連絡をお願いしてください）

〔授業中〕 ・ 休けい時間は取らないので、お手洗いにいきたくなくなったときや体調が悪くなった場合は、遠慮せずに申告してください。

- ・ 飲み物は飲みたいタイミングで飲んでもかまいませんが、食べ物はガムやアメもふくめ授業中には食べないようにしてください。（トローチやのど飴は申告があれば許可します）
- ・ 授業にふさわしくない言動や姿勢は注意します。（私語、不規則発言、机へのつつし、居眠り、イスあそび、テキスト立て など）
- ・ 途中式や答えはテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施してください。
（問題文への線引きや図形問題の条件等はテキストに書きこみでかまいません）
また、授業後に解き直しがしやすいように、ノートをしっかりとりましょう。

□ 毎回の宿題 ※ 通常回（まとめ回の宿題は別途指示を出します）

【全員共通】

- (1) 学習の要点・ノート 読みこみ・暗記
- (2) トレーニング・基本問題 授業で実施した問題もふくめ全問を実施
- (3) 確認テスト 全問を実施

※ すべての課題について、「解く」「〇つけ」「間違いの直し」「自力で解けるまで」実施しましょう。

- ・ 計算問題はできるだけ途中式を残してください。
- ・ 間違いの直しは、単なる暗記をのぞき「なぜその答えになるか」をメモしましょう。
- ・ 確認テストは、このあとに記載の「確認テストの進めかた」にしたがって実施してください。
- ・ プリントが配布された場合は、配布されたプリントも宿題として実施しましょう。

※ (2)は宿題提出用ノート、(3)は確認テストの用紙へ直接書きこみで実施してください。

※ 「トレーニング」は毎回チェックテストを実施します。（制限時間：10分程度）

→ マイナス2問以上の場合、トレーニング全問の再実施を宿題に追加します。

※ 宿題の提出が無いときは個別に声がけをします。（事情があり実施できない場合は事前に相談してください）

【任意課題】 アタックテスト偏差値60～が目標で余力がある場合

(4) 実力アップ問題集 標準演習全問の実施

※ 全員共通の宿題をすべて完了したうえで、宿題用ノートに実施してください。

※ さらに余力があるときは、発展演習にも取り組んでみましょう。
（解説を見ても理解できない問題の解き直しはとばしてもかまいません）

□ 確認テストの実施のしかた

- ① 名前を書く。
- ② 計算問題や条件整理が必要な問題は確認テストの余白へ途中式や図を書きながら解き、解答も確認テストへ直接書きこみながら解き進める。
- ③ 解説冊子を確認して、〇つけをする。
- ④ 間違えた問題は、解説冊子や授業用ノートを確認して、ミスの修正（直し）やメモをする。
- ⑤ ④で理解をした問題を、余白へもう一度解く。（自力で正解するまで解きなおす）

※ 計算問題や条件整理が必要な問題は、用紙の余白へ入試担当者（添削課題は先生）に
伝わるような途中式・図などを残すことを心がけ、少なくとも答えはていねいに書きましょう。

□ 「間違い直し」と「解き直し」の徹底について

・ 「間違い直し」は、色ペン（色鉛筆）で間違えたところの修正をおこないましょう。

※ 条件整理や計算が必要な問題は、「どのように解くか」をできるだけ言葉や式を書き残しながら答えまでの道筋をメモしましょう。

※ 記号問題について、理由を考える必要がある問題は「なぜその答えになるか」の根拠をメモで残しましょう。

・ 「解き直し」は、1回目に解いたところとは別の場所に、「解き直し」「2回目」などと書いてから自力で解けるまで解きなおしてください。